

岩通

線路試験用送受器

取扱説明書

IWATSU 岩崎通信機株式会社

情報通信営業部 〒168 東京都杉並区久我山1-7-41 ☎ (03)5370-5470

IWATSU

TML 004731

岩通

線路試験用送受器

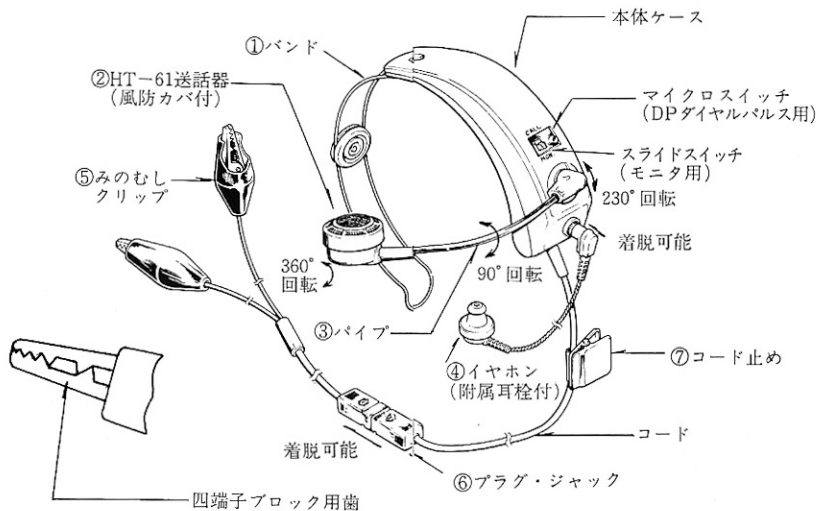
取扱説明書

この送受器は、主として交換施設、線路施設等の建設及び保守に使用する試験用送受器です。さらに線路試験用ダイヤル（別途市販品）とも接続可能で、PB電話回線にも使用できます。また、回路構成が第4図のようになっておりますから、2点間の連絡通話等、広範囲に御利用できます。

I 送受器の名称及び動作

本品の名称は第1図のとおりです。

第1図



①バンド

バンドは回転する機構で、折りたたみができます。

②送話器

プラグイン方式で着脱できます。またパイプを中心に自由に回転できます。風防カバは取り外しができます。

③パイプ

パイプは約90°回転し、本体ケースの軸部は230°回転できます。送話器の位置あわせに使用して下さい。

④イヤホン

イヤホンはプラグイン方式です。ユニットとコードは一体で分離

できません。

耳栓は通常外径 9 mm のものが付いておりますが、添付品として 10 mm のものが用意されていますので、耳に合うものをお選び下さい。

⑤みのむしクリップ

拡大図のとおり歯が一部ないところがありますが、太い線や四端子ブロック等を挟むとき、この部分をお使い下さい。

⑥プラグ・ジャック

着脱可能です。

PBダイヤル電話回線に使用する時、この部へ線路試験用ダイヤル（別途市販品をお買い求め下さい。）を接続します。

⑦コード止め

首に掛けた本体ケースが安定しない場合、コード止めを、えり等に挟んで固定させて下さい。

II 使い方

イ. 電話回線への使用

1. モニタ使用（送話断）

スライドスイッチのツマミを MON. 側とすれば、受話のみ使用できます。

2. DPダイヤルパルス送出及び

通話

スライドスイッチのツマミを CALL 側にし、みのむしクリップを電話回線に接続します。マイクロスイッチを断続的に 3 回押して下さい。（試験台を呼出す 111 のパルスが送出されます。）

この状態で試験台との通話ができます。

3. PBダイヤル信号送出及び通話

①スライドスイッチのツマミを CALL 側にします。

②コード中間のプラグ・ジャックを外し、ここに線路試験用ダイヤル（別途市販品をお買い求め下さい。）を接続して下さい。

③みのむしクリップを電話回線に接続します。

④ダイヤルの押しボタンスイッチを 3 回押して下さい。

（試験台を呼出す 111 の PB 信号が送出されます。）

この状態で試験台との通話ができます。

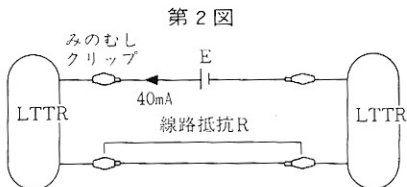
ロ. 2点間通話への使用（別途電池が必要です）

下記の接続により2点間の通話ができます。

スライドスイッチはCALL側にして下さい。（MON.側では通話できません）

線路に流す直流電流は40mA程度として下さい。

本器の直流抵抗は約250Ωです。



2点間通話の接続例

使用電圧の求め方

使用電圧 = 直流電流 × (LTTR 2台の直流抵抗 + 往復の線路抵抗)

往復の線路抵抗を100ΩとしてEを算出すると

$$E = 0.04 \times (2 \times 250 + 100) = 24V \quad \text{となります。}$$

線路抵抗の算出は右表を御利用下さい。

線径(銅線)	往復の線路抵抗(1km当り)
φ0.32mm	430Ω
0.4	280
0.5	180
0.65	105
0.9	55

III 送受器の正しい掛け方

送受器は常に正しく掛けた状態で使って下さい。この時理想的な通話性能が得られるようになっていきます。送受器を正しく掛けた状態は第3図です。

- ①バンドはえりの下に掛けて下さい。不安定な時はコード止めで固定して下さい。
- ②送話器は口の前面約2cm離れた位置で口に正対する様調節して下さい。

第3図



